

THE ART OF INQUIRY

自分と社会と未来を
つなぐ50の哲学の問い



アートを通して 自己と社会を見つめる

ウォームアップでは30秒の描画と30秒のライティングを5問、本編では3分の描画と2分のライティングを10問行いました。その結果、5クラス合計で延べ2400点もの作品が生まれました。

生徒たちは驚くほどの集中力で制作に向かい、自由で多様な作品を次々と生み出しました。そこには160の個性と人間性が如実に現れており、時に繊細で静かに、時に大胆で雄弁に表現された多くの真実に、私たちは幾度となく心を打たれました。そして、アートで人文学的テーマにアプローチするという新しい学びの形に多くの可能性を見出しました。

「今の時代」は何から作られていますか。

この世にある
全てのものが混ざり合い
途切れ合って作られている
つながろうとして離れて
やっとながっての繰り返し

「THE ART OF INQUIRY – 自分と社会と未来をつなぐ50の哲学の問い」は、横浜創英高等学校の美術選択1年生160名を対象に、アート教育NPO EduArtが2025年春に実施したアートプログラムです。

「政治的無関心は道徳的に問題ですか。」

「不幸は本人の問題ですか。それとも環境のせいですか。」

プログラムでは、社会や未来をテーマにした50の哲学的問いに、生徒たちが次々と短時間で答えを描き、その絵に呼応する言葉を自由に綴りました。この手法は「直感的描画法」と呼ばれ、心理学やアートセラピーにも用いられています。論理的思考を意図的に脇に置き、直感に従って描くことで、潜在的に眠る感情や価値観を可視化することを目的としています。





政治的無関心は道徳的に問題ですか。

まあ、ちょっとくらいは
もっといた方がいい
自分の言いたいことを
政府に言う時、何も知ら
ないで言うのとは
わけが違うから



不幸は本人の問題ですか。
それとも環境のせいですか。

環境のせい。
どんなに明るい色でも
黒が上からかぶさったら
黒になっちゃうから





社会という言葉で、まず思い描く
風景は、どんな風景ですか。

明るく見えてとても暗い
そんな場所
きれいな牢獄



今日という日は、二度と戻らない
と本当に理解していますか。

あみだくじのように
来た道を戻れない
近道もできない
(真っ直ぐ進めない)
理解しています





「この社会はおかしい」と感じたことがありますか。もしあるなら、それはどんな瞬間でしたか。

色（個性）が つぶされるとき



「これだけはすると」と心に決めていることがありますか。

たくさんしなくては
いけないことがある中で
しっかりやらなくては
ならないことが
筋を通して一つある



「これは大事」と、あなたが
ためらわず言えるものは何ですか。

人間性



その大事なものが失われたとき、あなたは
どうやって自分を取り戻しますか。

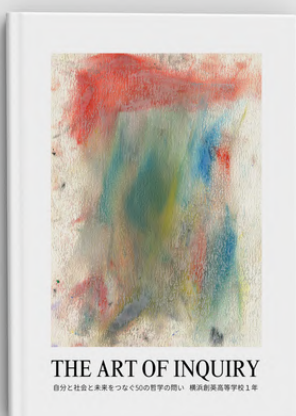
新しい大事なものが
まだたくさんあると
思うからその一つを
つかみとりにいく





あなたにとって、あるいはあなたの知らない人々にとって、
幸せって何だと思いますか。

喜ばしいことであり
祝福されるべきことでも
あり、ちょっと疎ましい
とか、羨ましいとも
思ってしまうけど
あたたかくて
いいものだと思います。



作品集のご注文

「THE ART OF INQUIRY—自分と社会と未来をつなぐ50の哲学の問い」にご参加いただいた、横浜創英高等学校1年・美術選択の生徒160名の作品を収録した冊子を制作しました。プログラムを通じて、浮かび上がった160名の個性と、驚くほど雄弁で豊かな表現に触れていただければ幸いです。

- ・タイトル：THE ART OF INQUIRY—自分と社会と未来をつなぐ50の哲学の問い
- ・仕様：B5サイズ、200ページ
- ・価格：税込3,500円（送料込み）
- ・第1回ご注文締切日：10月15日
- ・お届け日：2025年11月中旬
- ・お問合せ：info@eduart.jp



ご注文

9月27日・28日、創英祭にて作品展を開催！

「THE ART OF INQUIRY—自分と社会と未来をつなぐ50の哲学の問い」で生まれた美術選択高一の作品180点を創英祭・新館3F、第2自習コーナーにて開催します！



ご寄付のお願い EduArtの学校連携プログラムは団体の活動にご賛同いただける方のご寄付によって支えられています。皆様のあたたかいご支援お待ちしております。



ご寄付



インスタ

EDU
ART

特定非営利活動法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事として捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。

 www.eduart.jp

 www.facebook.com/EduArt.japan

 www.instagram.com/eduart_japan/